----------調　査　の　概　要

1　調査の目的

この調査は、家庭状況等主として環境上の理由により、児童福祉法に基づいて、里親に委託されている児童、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設及び乳児院に措置されている児童、母子生活支援施設を利用している母子世帯の児童並びにその保護者の実態を明らかにして、要保護児童の福祉増進のための基礎資料を得ることを目的とした。

2　調査の対象及び客体

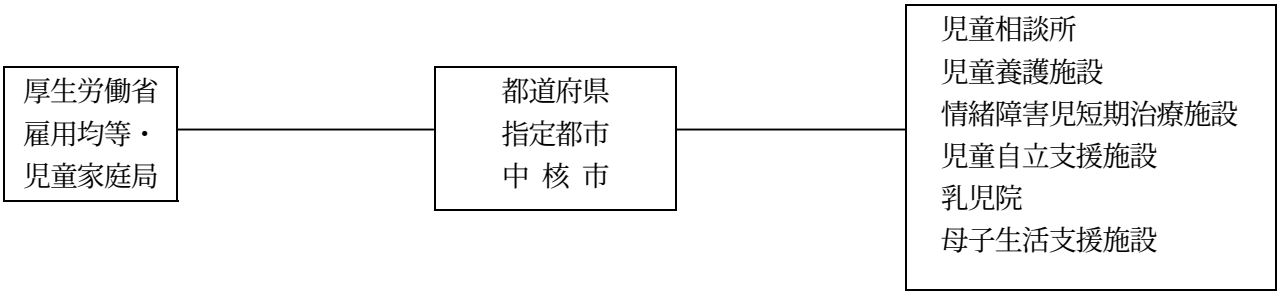
全国の里親委託児童、児童養護施設の入所児童、情緒障害児短期治療施設の入所児童、児童自立支援施設の入所児童、乳児院の入所児童及び母子生活支援施設の児童並びに保護者を対象とし、その全員を調査客体とした。

客体：里親委託児童　２，４５４人
児童養護施設入所児童　３０，４１６人（内、中学３年以上の年長児童　６，４６７人）
情緒障害児短期治療施設入所児童　７６８人
児童自立支援施設入所児童　１，６５７人（内、中学３年以上の年長児童　８１３人）
乳児院入所児童　３，０２３人
母子生活支援施設入所世帯　４，３４３世帯　及び　当該児童　７，０８９人

3　調査の時期

平成１５年２月１日

4　調査の方法



5　結果の集計

結果の集計は、雇用均等・児童家庭局において行った。

6　観察上の注意

この調査は、すべて全数調査であり、以下の統計数字は実数値である。

以下では、里親に委託されている児童を「里親委託児」、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設及び乳児院に措置されている児童をそれぞれ「養護施設児」「情緒障害児」「自立施設児」「乳児院児」、母子生活支援施設に措置されている母子世帯の児童を「母子施設児」という。

なお、構成割合は四捨五入のため、内容の合計が総数に合わない場合もある。

※　結果については、前回調査の数字を比較の参考として掲載している。
（前回調査日　平成１０年２月１日）

結果の概要

Ⅰ　児童の現在の状況

１　児童の現在の年齢（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、母子施設児）

調査日（平成１５年２月１日）現在の年齢別児童数は表１のとおりであるが、児童数は里親委託児が 2,454 人（前回 2,175 人）、養護施設児が 30,416 人（前回 26,979 人）、情緒障害児が 768 人（前回 623 人）、自立施設児が 1,657 人（前回 1,920 人）、乳児院児が 3,023 人（前回 2,720 人）、母子施設児が 7,089 人（前回 6,840 人）であった。

また、児童の平均年齢は、里親委託児 8.5 歳（前回 9.2 歳）、養護施設児 10.2 歳（前回 10.2 歳）、情緒障害児 12.5 歳（前回 12.2 歳）、自立施設児 14.2 歳（前回 14.2 歳）、乳児院児 1.0 歳（前回 1.0 歳）母子施設児 7.8 歳（前回 7.9 歳）と前回調査に比べ里親委託児の年齢が低下した以外は大きな変化はない。

表１　現在の年齢別児童数

	児童数						構成割合（%）					
	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児	母子施設児	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児	母子施設児
総数	2,454	30,416	768	1,657	3,023	7,089	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
男	1,252	16,397	443	1,136	1,670	3,565	51.0	53.9	57.7	68.6	55.2	50.3
女	1,200	13,897	321	515	1,337	3,484	48.9	45.7	41.8	31.1	44.2	49.1
0歳	69	4	-	-	971	158	2.8	0.0	-	-	32.1	2.2
1歳	133	34	-	-	1,294	349	5.4	0.1	-	-	42.8	4.9
2歳	194	657	-	-	683	420	7.9	2.2	-	-	22.6	5.9
3歳	174	1,342	2	-	62	494	7.1	4.4	0.3	-	2.1	7.0
4歳	183	1,574	-	-	5	535	7.5	5.2	-	-	0.2	7.5
5歳	146	1,810	3	-	7	576	5.9	6.0	0.4	-	0.2	8.1
6歳	138	1,981	7	-	1	506	5.6	6.5	0.9	-	0.0	7.1
7歳	119	1,999	18	-	-	529	4.8	6.6	2.3	-	-	7.5
8歳	121	2,142	33	5	-	572	4.9	7.0	4.3	0.3	-	8.1
9歳	115	2,076	54	9	-	481	4.7	6.8	7.0	0.5	-	6.8
10歳	118	2,125	75	32	-	423	4.8	7.0	9.8	1.9	-	6.0
11歳	123	2,085	75	47	-	406	5.0	6.9	9.8	2.8	-	5.7
12歳	124	2,111	78	90	-	401	5.1	6.9	10.2	5.4	-	5.7
13歳	122	2,158	92	227	-	311	5.0	7.1	12.0	13.7	-	4.4
14歳	125	2,197	142	490	-	283	5.1	7.2	18.5	29.6	-	4.0
15歳	107	2,079	111	558	-	222	4.4	6.8	14.5	33.7	-	3.1
16歳	114	1,544	34	120	-	183	4.6	5.1	4.4	7.2	-	2.6
17歳	136	1,359	28	51	-	134	5.5	4.5	3.6	3.1	-	1.9
18歳以上	91	1,119	16	26	-	97	3.7	3.7	2.1	1.6	-	1.4
平均年齢	8.5歳	10.2歳	12.5歳	14.2歳	1.0歳	7.8歳	・	・	・	・	・	・

注）総数には、性別不詳、年齢不詳を含む。

2　児童の委託（入所）時の年齢（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、母子施設児）

児童の委託時または入所時の年齢は、里親委託児及び養護施設児では 2 歳、情緒障害児では 13 歳、自立施設児では 14 歳、乳児院児では 0 歳が最も多くなっており、母子施設児では 0～5 歳に集中している。

また、6 歳未満で委託または入所した児童は、乳児院児の全部をはじめ、里親委託児で 72.0%（前回 74.0%）、養護施設児で 54.9%（前回 55.3%）、母子施設児で 57.9%（前回 61.0%）となっている。12 歳以上で入所した児童は、養護施設児で 12.0%（前回 11.1%）、情緒障害児で 45.6%（前回 49.6%）、自立施設児で 87.4%（前回 84.2%）となっている。

表２　委託時又は入所時の年齢別児童数

	児童数						構成割合（%）					
	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児	母子施設児	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児	母子施設児
総数	2,454	30,416	768	1,657	3,023	7,089	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
0歳	272	74	-	-	2,442	810	11.1	0.2	-	-	80.8	11.4
1歳	315	1,024	1	-	522	711	12.8	3.4	0.1	-	17.3	10.0
2歳	525	6,577	2	-	49	724	21.4	21.6	0.3	-	1.6	10.2
3歳	277	3,968	-	-	4	653	11.3	13.0	-	-	0.1	9.2
4歳	196	2,640	3	-	2	632	8.0	8.7	0.4	-	0.1	8.9
5歳	183	2,421	6	-	1	576	7.5	8.0	0.8	-	0.0	8.1
6歳	136	2,452	30	1	-	515	5.5	8.1	3.9	0.1	-	7.3
7歳	107	1,840	59	5	-	442	4.4	6.0	7.7	0.3	-	6.2
8歳	66	1,691	82	13	-	414	2.7	5.6	10.7	0.8	-	5.8
9歳	55	1,520	65	37	-	361	2.2	5.0	8.5	2.2	-	5.1
10歳	49	1,347	84	53	-	306	2.0	4.4	10.9	3.2	-	4.3
11歳	40	1,160	83	98	-	254	1.6	3.8	10.8	5.9	-	3.6
12歳	43	1,170	84	207	-	169	1.8	3.8	10.9	12.5	-	2.4
13歳	46	1,015	123	479	-	142	1.9	3.3	16.0	28.9	-	2.0
14歳	33	786	94	532	-	98	1.3	2.6	12.2	32.1	-	1.4
15歳	52	472	33	183	-	74	2.1	1.6	4.3	11.0	-	1.0
16歳	34	137	15	31	-	42	1.4	0.5	2.0	1.9	-	0.6
17歳	17	62	1	16	-	22	0.7	0.2	0.1	1.0	-	0.3
18歳以上	4	9	-	-	-	7	0.2	0.0	-	-	-	0.1
平均年齢	4.4歳	5.9歳	10.8歳	13.1歳	0.2歳	5.1歳	・	・	・	・	・	・

注）総数には、年齢不詳を含む。

3　児童の委託（在所）期間（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児）

児童の委託期間または在所期間は、里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児のいずれの場合も「1年未満」が最も多く、期間が長くなるに従い児童数が漸減している。

また平均委託(在所)期間は、里親委託児4.2年（前回5.4年)、養護施設児4.4年（前回4.8年)、情緒障害児1.7年（前回1.4年)、自立施設児1.0年（前回1.0年)、乳児院児0.9年（前回1.1年）となっている。

表3　委託期間又は在所期間別児童数

	児童数					構成割合（%）				
	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児
総数	2,454	30,416	768	1,657	3,023	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1年未満	740	5,593	330	965	1,745	30.2	18.4	43.0	58.2	57.7
1年以上-2年未満	383	4,791	212	474	968	15.6	15.8	27.6	28.6	32.0
2年以上-3年未満	241	3,866	114	140	290	9.8	12.7	14.8	8.4	9.6
3年以上-4年未満	174	3,165	57	46	15	7.1	10.4	7.4	2.8	0.5
4年以上-5年未満	120	2,536	23	12	4	4.9	8.3	3.0	0.7	0.1
5年以上-6年未満	95	2,076	11	13	-	3.9	6.8	1.4	0.8	-
6年以上-7年未満	99	1,706	13	2	-	4.0	5.6	1.7	0.1	-
7年以上-8年未満	89	1,387	-	1	-	3.6	4.6	-	0.1	-
8年以上-9年未満	73	1,146	2	1	-	3.0	3.8	0.3	0.1	-
9年以上-10年未満	88	996	2	-	-	3.6	3.3	0.3	-	-
10年以上-11年未満	70	888	-	-	-	2.9	2.9	-	-	-
11年以上-12年未満	66	707	1	-	-	2.7	2.3	0.1	-	-
12年以上	211	1,530	1	-	-	8.6	5.0	0.1	-	-
平均期間	4.2年	4.4年	1.7年	1.0年	0.9年	・	・	・	・	・

注）総数には、期間不詳を含む。

4　児童の委託（入所）経路（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児）

児童の委託経路または入所経路をみると、里親委託児では「家庭から」34.7%（前回 28.9%）、「乳児院から」32.6%（前回 39.4%）、「児童養護施設から」23.7%（前回 24.5%）が多く、養護施設児、情緒障害児、自立施設児及び乳児院児では「家庭から」が、それぞれ 74.1%（前回 72.6%）、84.8%（前回 92.6%）、65.3%（前回 73.3%）、75.4%（前回 83.1%）とそのほとんどを占めている。また、自立施設児では家庭裁判所からの決定によるものが増加し、17.0%（前回 11.8%）となっている。

表４　委託経路又は入所経路別児童数

	総数	家庭から	乳児院から	児童養護施設から	他の児童福祉施設から	里親家庭から	家庭裁判所から	その他から	不詳
里親委託児	2,454 100.0%	851 34.7%	799 32.6%	581 23.7%	47 1.9%	78 3.2%	* *	90 3.7%	8 0.3%
養護施設児	30,416 100.0%	22,548 74.1%	5,557 18.3%	782 2.6%	596 2.0%	269 0.9%	23 0.1%	579 1.9%	62 0.2%
情緒障害児	768 100.0%	651 84.8%	- -	* *	81 10.5%	11 1.4%	* *	24 3.1%	1 0.1%
自立施設児	1,657 100.0%	1,082 65.3%	* *	218 13.2%	48 2.9%	12 0.7%	282 17.0%	14 0.8%	1 0.1%
乳児院児	3,023 100.0%	2,280 75.4%	48 1.6%	* *	* *	5 0.2%	* *	685 22.7%	5 0.2%

注）＊は調査項目としていない。

「家庭裁判所から」は、入所前に生活していた場所に関係なく、保護処分により入所したことをいう。

5　児童の就学状況（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、母子施設児）

児童の就学状況をみると、里親委託児、養護施設児及び母子施設児では「就学前」が最も多く、それぞれ 41.8%（前回 36.1%）、23.2%（前回 22.6%）、41.2%（前回 38.8%）となっており、情緒障害児及び自立施設児では「中学校」が多く、それぞれ 45.8%（前回 54.1%）、76.4%（前回 74.7%）となっている。

なお、「中学校卒」が多いのは、里親委託児 15.0%（前回 17.0%）及び養護施設児 14.1%（前回 15.5%）となっており、割合は低下している。

表５　就学状況別児童数

	総数	就学前	小学校低学年(1～3)	小学校高学年(4～6)	中学校	中学卒			不詳
						公立高校	私立高校	その他	
里親委託児	2,454 100.0%	1,025 41.8%	350 14.3%	360 14.7%	350 14.3%	228 9.3%	88 3.6%	53 2.2%	- -
養護施設児	30,416 100.0%	7,066 23.2%	6,211 20.4%	6,338 20.8%	6,498 21.4%	3,003 9.9%	924 3.0%	375 1.2%	1 0.0%
情緒障害児	768 100.0%	9 1.2%	105 13.7%	221 28.8%	352 45.8%	68 8.9%	3 0.4%	10 1.3%	- -
自立施設児	1,657 100.0%	- -	13 0.8%	158 9.5%	1,266 76.4%	44 2.7%	6 0.4%	170 10.3%	- -
母子施設児	7,089 100.0%	2,920 41.2%	1,574 22.2%	1,276 18.0%	844 11.9%	260 3.7%	90 1.3%	92 1.3%	33 0.5%

6　児童の心身の状況（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、母子施設児）

児童の心身の状況については、里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児及び母子施設児において「障害等あり」の割合が、それぞれ12.6%（前回8.9%）、20.2%（前回10.3%）、59.5%（前回48.2%）、27.3%（前回11.1%）、30.4%（前回28.1%）、12.5%（前回8.4%）となっており、いずれも増えている。

表６　心身の状況別児童数

	総　数	障害等あり	障害等あり内訳（重複回答）							
			身体虚弱	肢体不自由	視聴覚障害	言語障害	知的障害	てんかん	ADHD	その他の障害等
里親委託児	2,454 100.0%	310 12.6%	41 1.7%	14 0.6%	20 0.8%	32 1.3%	115 4.7%	14 0.6%	25 1.0%	96 3.9%
養護施設児	30,416 100.0%	6,155 20.2%	772 2.5%	132 0.4%	233 0.8%	437 1.4%	2,476 8.1%	421 1.4%	531 1.7%	2,518 8.3%
情緒障害児	768 100.0%	457 59.5%	23 3.0%	6 0.8%	1 0.1%	8 1.0%	64 8.3%	13 1.7%	70 9.1%	381 49.6%
自立施設児	1,657 100.0%	452 27.3%	22 1.3%	2 0.1%	6 0.4%	7 0.4%	142 8.6%	27 1.6%	124 7.5%	215 13.0%
乳児院児	3,023 100.0%	919 30.4%	631 20.9%	90 3.0%	73 2.4%	89 2.9%	147 4.9%	53 1.8%	7 0.2%	249 8.2%
母子施設児	7,089 100.0%	888 12.5%	242 3.4%	30 0.4%	32 0.5%	63 0.9%	203 2.9%	63 0.9%	59 0.8%	375 5.3%

7　児童の罹患傾向（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、母子施設児）

児童の罹患傾向をみると、「罹患傾向あり」が里親委託児で15.9%（前回12.2%）、養護施設児で20.1%（前回16.0%）、情緒障害児で25.5%（前回26.2%）、自立施設児で15.9%（前回12.6%）,乳児院児で66.8%（前回62.8%）、母子施設児で32.0%（前回29.3%）となっており、情緒障害児を除いていずれも前回調査より増えている。

表７　罹患傾向別児童数

	総　数	罹患傾向あり	罹患状況内訳（重複回答）					
			ひきつけたことがある	下痢をしやすい	よく熱をだす	風邪をひきやすい	湿疹が出やすい	その他
里親委託児	2,454 100.0%	390 15.9%	18 0.7%	26 1.1%	41 1.7%	151 6.2%	97 4.0%	136 5.5%
養護施設児	30,416 100.0%	6,111 20.1%	376 1.2%	442 1.5%	1,065 3.5%	2,148 7.1%	1,239 4.1%	2,117 7.0%
情緒障害児	768 100.0%	196 25.5%	10 1.3%	20 2.6%	24 3.1%	26 3.4%	39 5.1%	111 14.5%
自立施設児	1,657 100.0%	264 15.9%	15 0.9%	30 1.8%	31 1.9%	46 2.8%	56 3.4%	116 7.0%
乳児院児	3,023 100.0%	2,020 66.8%	164 5.4%	408 13.5%	878 29.0%	1,143 37.8%	549 18.2%	476 15.7%
母子施設児	7,089 100.0%	2,270 32.0%	227 3.2%	226 3.2%	596 8.4%	1,342 18.9%	300 4.2%	525 7.4%

8　特に指導上留意している点（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、母子施設児）

特に指導上留意している点については、「留意している点あり」が里親委託児で 89.0%（前回 87.4%）、養護施設児で98.8%（前回96.2%）、情緒障害児で99.9%（前回97.8%）、自立施設児で99.8%（前回98.5%）、母子施設児で 83.8%（前回 86.6%）となっており、いずれも高い割合を示す。母子施設児を除いて増加の値を示している。

「心の安定」を留意点としてあげているのは共通な傾向であるが、里親委託児では次いで「里親との関係」38.8%、養護施設児では「家族との関係」50.1%、情緒障害児では一番が「家族との関係」66.0%、次いで「心理的対応」64.2%、自立施設児では「家族との関係」55.6%及び「社会規範」53.1%などが多くなっている。

表８－１　特に指導上留意している点別児童数

	総　数	留意している点あり	留　意　点（重複回答）							
			心の安定	友人との関　係	家族との関　係	学習の興味・関心	しつけ	心理的対　応	社 会規 範	職　員（里親）との関係
里親委託児	2,454 100.0%	2,184 89.0%	1,160 47.3%	425 17.3%	357 14.5%	414 16.9%	805 32.8%	109 4.4%	198 8.1%	951 38.8%
養護施設児	30,416 100.0%	30,049 98.8%	19,699 64.8%	10,522 34.6%	15,242 50.1%	10,919 35.9%	13,807 45.4%	4,785 15.7%	5,561 18.3%	8,177 26.9%
情緒障害児	768 100.0%	767 99.9%	471 61.3%	454 59.1%	507 66.0%	204 26.6%	219 28.5%	493 64.2%	157 20.4%	279 36.3%
自立施設児	1,657 100.0%	1,654 99.8%	1,012 61.1%	768 46.3%	922 55.6%	536 32.3%	621 37.5%	175 10.6%	880 53.1%	483 29.1%
母子施設児	7,089 100.0%	5,943 83.8%	3,192 45.0%	2,203 31.1%	2,350 33.1%	1,722 24.3%	2,673 37.7%	517 7.3%	650 9.2%	811 11.4%

（表８－２につづく）

表８－２　特に指導上留意している点別児童数

	留　意　点（重複回答）									
	思いやり	将来設計	男女交際	自主性積極性	自己表現力	文化･生活習慣	経済観念	医療的対応	就職及び職業の安定	行動上の問題
里親委託児	485 19.8%	265 10.8%	82 3.3%	297 12.1%	279 11.4%	182 7.4%	126 5.1%	107 4.4%	86 3.5%	115 4.7%
養護施設児	10,077 33.1%	4,524 14.9%	1,924 6.3%	6,698 22.0%	10,528 34.6%	5,801 19.1%	2,692 8.9%	1,822 6.0%	1,108 3.6%	2,457 8.1%
情緒障害児	114 14.8%	107 13.9%	55 7.2%	167 21.7%	364 47.4%	75 9.8%	48 6.3%	103 13.4%	13 1.7%	150 19.5%
自立施設児	477 28.8%	348 21.0%	242 14.6%	387 23.4%	553 33.4%	284 17.1%	82 4.9%	114 6.9%	130 7.8%	318 19.2%
母子施設児	1,950 27.5%	369 5.2%	141 2.0%	1,033 14.6%	1,282 18.1%	905 12.8%	193 2.7%	297 4.2%	75 1.1%	437 6.2%

9　学業の状況（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、母子施設児）

学業の状況については、里親委託児、養護施設児及び母子施設児では「特に問題なし」が最も高く、その割合はそれぞれ 37.6%（前回 45.1%）、46.2%（前回 48.5%）、41.3%（前回 42.8%）となっているが、情緒障害児及び自立施設児では「遅れがある」が最も高く、その割合はそれぞれ 57.0%（前回 57.8%）、66.9%（前回 65.6%）となっている。

表９　学業の状況別児童数

	総　数	すぐれている	特に問題なし	遅れがある	不　詳
里親委託児	2,454 100.0%	168 6.8%	923 37.6%	308 12.6%	1,055 43.0%
養護施設児	30,416 100.0%	1,163 3.8%	14,038 46.2%	7,969 26.2%	7,246 23.8%
情緒障害児	768 100.0%	16 2.1%	301 39.2%	438 57.0%	13 1.7%
自立施設児	1,657 100.0%	31 1.9%	493 29.8%	1,108 66.9%	25 1.5%
母子施設児	7,089 100.0%	221 3.1%	2,931 41.3%	910 12.8%	3,027 42.7%

10　通学状況（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、母子施設児）

通学状況については、里親委託児、養護施設児、情緒障害児及び母子施設児ともに「普通に通学」が最も多く、その割合はそれぞれ 54.4%（前回 61.6%）、73.0%（前回 74.8%）、82.8%（前回 81.5%）、51.4%（前回 53.6%）となっている。

表１０　通学状況別児童数

	総　数	普通に通学	欠席しがち	不　詳
里親委託児	2,454 100.0%	1,336 54.4%	58 2.4%	1,060 43.2%
養護施設児	30,416 100.0%	22,208 73.0%	948 3.1%	7,260 23.9%
情緒障害児	768 100.0%	636 82.8%	119 15.5%	13 1.7%
母子施設児	7,089 100.0%	3,646 51.4%	418 5.9%	3,025 42.7%

Ⅱ　委託（入所）時の家庭の状況（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児）

１　養護問題発生理由

養護問題発生理由の主なものは、里親委託児の場合には「養育拒否」19.9%（前回 23.8%）、「父母の行方不明」14.8%（前回 17.9%）であり、養護施設児の場合には「父母の放任・怠だ」11.7%（前回 8.6%）、「父母の就労」11.6%（前回 14.2%）、「父母の虐待・酷使」11.1%（前回 5.7%）、「父母の行方不明」11.0%（前回 14.9%）、「父母の入院」7.0%（前回 9.1%）、乳児院の場合には「父母の精神疾患等」が 14.9%（前回 13.0%）、「両親の未婚」が 12.0%（前回 12.2%）、「父母の就労」7.1%（前回 11.3%）となっている。なお、養護施設児では「父母の死亡」は 3.0%（前回 3.5%）であった。

また、情緒障害児の場合には「父母の虐待・酷使」22.9%（前回 11.6%）、「父母の放任･怠だ」14.1%（前回 10.0%）であり、自立施設児の場合には「父母の放任・怠だ」20.8%（前回 23.5%）、「父母の離婚」12.4%（前回 16.8%）、「父母の虐待・酷使」11.3%（前回 6.7%）となっている。

なお、一般的に「虐待」とされる「放任･怠だ」「虐待･酷使」「棄児」「養育拒否」を合計すると、里親委託児は全体の 40.4%（前回 39.1%）、養護施設児 27.4%（前回 19.2%）、情緒障害児 42.1%（前回 24.4%）、自立施設児 37.5%（前回 34.6%）、乳児院児 20.5%（前回 16.6%）となっており、前回調査に比し里親及びすべての施設において虐待を理由とした委託及び入所が増えている。特に、情緒障害児の増加が著しくなっている。

表１１　養護問題発生理由別児童数

	児童数					構成割合（%）				
	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児
総　数	2,454	30,416	768	1,657	3,023	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
父の死亡	17	231	6	19	5	0.7	0.8	0.8	1.1	0.2
母の死亡	58	681	10	13	28	2.4	2.2	1.3	0.8	0.9
父の行方不明	62	653	5	15	24	2.5	2.1	0.7	0.9	0.8
母の行方不明	300	2,680	3	30	156	12.2	8.8	0.4	1.8	5.2
父母の離婚	85	1,983	42	205	128	3.5	6.5	5.5	12.4	4.2
両親の未婚	＊	＊	＊	＊	364	＊	＊	＊	＊	12.0
父母の不和	27	262	15	42	36	1.1	0.9	2.0	2.5	1.2
父の拘禁	15	641	1	20	36	0.6	2.1	0.1	1.2	1.2
母の拘禁	61	810	7	7	100	2.5	2.7	0.9	0.4	3.3
父の入院	13	325	-	9	9	0.5	1.1	-	0.5	0.3
母の入院	122	1,803	9	8	154	5.0	5.9	1.2	0.5	5.1
家族の疾病の付添	＊	＊	＊	＊	20	＊	＊	＊	＊	0.7
次子出産	＊	＊	＊	＊	18	＊	＊	＊	＊	0.6
父の就労	39	2,093	10	31	32	1.6	6.9	1.3	1.9	1.1
母の就労	90	1,444	15	75	183	3.7	4.7	2.0	4.5	6.1
父の精神疾患等	6	197	7	12	10	0.2	0.6	0.9	0.7	0.3
母の精神疾患等	148	2,282	84	71	440	6.0	7.5	10.9	4.3	14.6
父の放任・怠だ	40	769	20	113	6	1.6	2.5	2.6	6.8	0.2
母の放任・怠だ	184	2,777	88	231	175	7.5	9.1	11.5	13.9	5.8
父の虐待･酷使	51	1,522	77	118	51	2.1	5.0	10.0	7.1	1.7
母の虐待･酷使	75	1,867	99	69	88	3.1	6.1	12.9	4.2	2.9
棄　児	153	236	6	14	67	6.2	0.8	0.8	0.8	2.2
養育拒否	489	1,169	33	77	232	19.9	3.8	4.3	4.6	7.7
破産等の経済的理由	128	2,452	9	20	234	5.2	8.1	1.2	1.2	7.7
児童の問題による監護困難	25	1,139	＊	＊	9	1.0	3.7	＊	＊	0.3
そ の 他	210	2,374	92	123	322	8.6	7.8	12.0	7.4	10.7
特 に な し	＊	＊	97	137	＊	＊	＊	12.6	8.3	＊
不　詳	56	26	33	198	96	2.3	0.1	4.3	11.9	3.2

注）＊は、調査項目としていない。

2　委託（入所）時の保護者の状況

委託（入所）時に「両親又は一人親あり」の割合をみると、里親委託児で 67.8%（前回 54.2%）、養護施設児で 91.5%（前回 82.8%）、情緒障害児で 85.3%（前回 96.8%）、自立施設児で 89.1%（前回 89.2%）、乳児院児で 84.6%（前回 92.0%）となっており、里親委託児で最も低くなっている。

「両親又は一人親あり」の児童についてみると、最も割合の多い保護者は、里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児が「実母のみ」でそれぞれ 56.9%（前回 57.6%）、38.1%（前回 34.3%）、36.6%（前回 26.9%）、40.3%（前回 34.5%）であり、乳児院児が「実父母有」で 46.9%（前回 42.6%）となっている。しかし、情緒障害児の「実父母有」35.3%（前回 49.4%）、乳児院児の「実母のみ」46.4%（前回 46.3%）がほとんど差がなく続いている。

「両親ともいない・不明」の児童についてみると、祖父母が養育を行っている割合が高い。

表１２-１　委託（入所）時の保護者の状況別児童数

	総　数	両親又は一人親	両親ともいない	両親とも不明	不　詳
里親委託児	2,454	1,663	290	199	302
	100.0%	67.8%	11.8%	8.1%	12.3%
養護施設児	30,416	27,836	1,509	954	117
	100.0%	91.5%	5.0%	3.1%	0.4%
情緒障害児	768	655	31	11	71
	100.0%	85.3%	4.0%	1.4%	9.2%
自立施設児	1,657	1,477	85	47	48
	100.0%	89.1%	5.1%	2.8%	2.9%
乳 児 院 児	3,023	2,556	47	84	336
	100.0%	84.6%	1.6%	2.8%	11.1%

表１２-２　両親又は一人親ありの内訳別児童数

	総　数	実父母有	実父のみ	実母のみ	実父養母	養父実母	養父養母	養父のみ	養母のみ	不詳
里親委託児	1,663	383	205	946	26	87	1	8	4	3
	100.0%	23.0%	12.3%	56.9%	1.6%	5.2%	0.1%	0.5%	0.2%	0.2%
養護施設児	27,836	8,189	6,319	10,594	733	1,736	56	141	56	12
	100.0%	29.4%	22.7%	38.1%	2.6%	6.2%	0.2%	0.5%	0.2%	0.0%
情緒障害児	655	231	58	240	41	80	2	3	-	-
	100.0%	35.3%	8.9%	36.6%	6.3%	12.2%	0.3%	0.5%	-	-
自立施設児	1,477	367	249	595	77	173	8	3	2	3
	100.0%	24.8%	16.9%	40.3%	5.2%	11.7%	0.5%	0.2%	0.1%	0.2%
乳 児 院 児	2,556	1,198	125	1,186	2	39	1	-	2	3
	100.0%	46.9%	4.9%	46.4%	0.1%	1.5%	0.0%	-	0.1%	0.1%

表１２-３　両親ともいない・不明の内訳別児童数

	総　数	祖父母	養父母の親	兄･姉	義兄義姉	伯(叔)父母	義伯(叔)父母	里　親	その他	な　し	不　明	不　詳
里親委託児	489	138	-	7	1	28	3	16	75	68	135	18
	100.0%	28.2%	-	1.4%	0.2%	5.7%	0.6%	3.3%	15.3%	13.9%	27.6%	3.7%
養護施設児	2,463	1,166	30	117	16	313	16	96	298	164	218	29
	100.0%	47.3%	1.2%	4.8%	0.6%	12.7%	0.6%	3.9%	12.1%	6.7%	8.9%	1.2%
情緒障害児	42	14	1	4	-	6	2	3	5	3	3	1
	100.0%	33.3%	2.4%	9.5%	-	14.3%	4.8%	7.1%	11.9%	7.1%	7.1%	2.4%
自立施設児	132	44	3	7	2	12	1	12	22	8	12	9
	100.0%	33.3%	2.3%	5.3%	1.5%	9.1%	0.8%	9.1%	16.7%	6.1%	9.1%	6.8%
乳 児 院 児	131	43	-	-	-	4	-	2	6	10	58	8
	100.0%	32.8%	-	-	-	3.1%	-	1.5%	4.6%	7.6%	44.3%	6.1%

III　家族との関係（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児）

1　家族との交流関係

家族との交流関係について「交流なし」の割合は、里親委託児で 75.7%（前回 82.2%）、養護施設児で 16.6%（前回 17.6%）、情緒障害児で 7.2%（前回 2.7%）、自立施設児で 11.5%（前回 6.7%）、乳児院児で 23.4%（前回 22.6%）となっており、特に、里親委託児で「交流なし」が高くなっている。施設入所児童の交流では帰省の割合が高く、養護施設児で 51.6%（前回 56.9%）、情緒障害児で 72.4%（前回 78.0%）、自立施設児で 48.1%（前回 56.4%）となっている。乳児院児では面会の割合が多く、48.3%（前回 53.6%）となっている。

表１３-１　家族との交流関係別児童数

	総　数	交流あり			交流なし	不　詳
		帰　省	面　会	電話手紙連絡		
里親委託児	2,454	162	263	140	1,858	31
	100.0%	6.6%	10.7%	5.7%	75.7%	1.3%
養護施設児	30,416	15,706	5,419	4,012	5,057	222
	100.0%	51.6%	17.8%	13.2%	16.6%	0.7%
情緒障害児	768	556	106	31	55	20
	100.0%	72.4%	13.8%	4.0%	7.2%	2.6%
自立施設児	1,657	797	323	157	191	189
	100.0%	48.1%	19.5%	9.5%	11.5%	11.4%
乳 児 院 児	3,023	455	1,460	251	708	149
	100.0%	15.1%	48.3%	8.3%	23.4%	4.9%

次に家族との交流頻度であるが、電話・手紙において「年 2 回～11 回」が最も高く、里親委託児 49.3%（前回 54.7%）、養護施設児 61.6%（前回 63.1%）、情緒障害児で 64.5%（前回 42.9%）、自立施設児 52.9%（前回 63.6%）、乳児院児 57.4%（前回 52.1%）であった。

また、面会において「月 1 回以上」が最も高かったのは乳児院児 47.7%（前回 50.0%）であった。「年 2 回～11 回」が最も高かったのは、里親委託児 52.5%（前回 47.0%）、養護施設児 67.5%（前回 67.6%）、情緒障害児 62.3%（前回 38.3%）、自立施設児 58.2%（前回 57.9%）であった。

さらに、帰省において「月 1 回以上」が最も高かったのは情緒障害児で 62.8%（前回 74.9%）、乳児院児 56.7%（前回 57.5%）であった。「年 2 回～11 回」が最も高かったのは、里親委託児 54.3%（前回 45.1%）、養護施設児 71.0%（前回 73.5%）、自立施設児 76.2%（前回 80.1%）であった。

表１３-２　家族との交流頻度別児童数

	児　童　数					構　成　割　合　（%）				
	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児
【電話・手紙】										
総　数	140	4,012	31	157	251	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
月1回以上	34	1,052	6	66	79	24.3	26.2	19.4	42.0	31.5
年2回～11回	69	2,473	20	83	144	49.3	61.6	64.5	52.9	57.4
年1回ぐらい	37	479	5	8	26	26.4	11.9	16.1	5.1	10.4
不詳	-	8	-	-	2	-	0.2	-	-	0.8
【面　会】										
総　数	263	5,419	106	323	1,460	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
月1回以上	69	1,194	30	109	696	26.2	22.0	28.3	33.7	47.7
年2回～11回	138	3,657	66	188	677	52.5	67.5	62.3	58.2	46.4
年1回ぐらい	54	563	10	26	86	20.5	10.4	9.4	8.0	5.9
不詳	2	5	-	-	1	0.8	0.1	-	-	0.1
【帰　省】										
総　数	162	15,706	556	797	455	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
月1回以上	66	3,668	349	141	258	40.7	23.4	62.8	17.7	56.7
年2回～11回	88	11,148	196	607	175	54.3	71.0	35.3	76.2	38.5
年1回ぐらい	8	888	11	49	22	4.9	5.7	2.0	6.1	4.8
不詳	-	2	-	-	-	-	0.0	-	-	-

2　児童の今後の見通し

児童の今後の見通しについては、里親委託児では「自立まで現在の里親家庭で養育」49.2%（前回 55.0%）、「養子縁組」28.4%（前回 33.4%）に対し、「保護者のもとへ復帰」は 13.9%（前回 6.7%）にすぎない。養護施設児では「自立まで現在の児童養護施設で養育」56.5%（前回 64.2%）、情緒障害児では「保護者のもとへ復帰」53.5%（前回 72.2%）、自立施設児では「保護者のもとへ復帰」60.8%（前回 56.3%）、乳児院児では「現在の乳児院で養育」35.6%（前回 35.3%）が最も高くなっている。

表１４-１　児童の今後の見通し別児童数（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児）

	総　数	保護者のもとへ復帰	親類等の家庭への引き取り	自立まで現在のままで養育	養子縁組又は里親委託	現在のままでは養育困難	その他	不　詳
里親委託児	2,454 100.0%	342 13.9%	19 0.8%	1,207 49.2%	697 28.4%	22 0.9%	151 6.2%	16 0.7%
養護施設児	30,416 100.0%	9,976 32.8%	479 1.6%	17,199 56.5%	420 1.4%	455 1.5%	1,846 6.1%	41 0.1%
情緒障害児	768 100.0%	411 53.5%	16 2.1%	93 12.1%	2 0.3%	18 2.3%	221 28.8%	7 0.9%
自立施設児	1,657 100.0%	1,007 60.8%	32 1.9%	388 23.4%	11 0.7%	42 2.5%	175 10.6%	2 0.1%

表１４-２　児童の今後の見通し別児童数（乳児院児）

	総　数	保護者のもとへ復帰	親類等の家庭への引き取り	現在の乳児院で養育	児童養護施設へ	母子生活支援施設へ	養子縁組又は里親委託	その他	不詳
乳児院児	3,023 100.0%	691 22.9%	20 0.7%	1,077 35.6%	773 25.6%	5 0.2%	295 9.8%	153 5.1%	9 0.3%

Ⅳ　里親家庭の状況

１　里親申込みの動機

調査日（平成 15 年 2 月 1 日）現在で、現に委託されている里親家庭の総数は 1,958 世帯となっており、前回調査（平成 10 年 2 月 1 日）時点の 1,731 世帯より 227 世帯（13.1%）増加している。

里親申込みの動機別をみると「子どもを育てたいから」33.6%（前回 37.6%）、「児童福祉への理解から」32.3%（前回 27.1%）、「養子を得たいため」29.8%（前回 32.2%）となっている。前回調査と比較すると、「養子を得たいため」の割合が下がり、「児童福祉への理解から」の割合が上がり、逆転している。

表１５　里親申込みの動機別里親家庭数

総　数	児童福祉への理解から	子どもを育てたいから	養　子　を得たいため	その他	不　詳
1,958	632	658	583	39	46
100.0%	32.3%	33.6%	29.8%	2.0%	2.3%

２　登録期間

児童が委託されている里親家庭の登録期間は、「5 年未満」が 38.8%（前回 36.2%）と最も多く、以下、登録期間が長くなるに従い減っていくが、「15 年以上」も 18.5%（前回 15.4%）ある。

表１６　登録期間別里親家庭数

総　数	5年未満	5～9年	10～14年	15年以上	不　詳
1,958	760	494	340	362	2
100.0%	38.8%	25.2%	17.4%	18.5%	0.1%

３　委託児童数

委託児童数は、「１人」が 55.5%（前回 81.4%）と最も多く、「２人」の 24.3%（前回 13.9%）と合わせて里親家庭の大部分を占めている。

なお、前回調査に比べると「1 人」が大幅に減少し、委託児童数３人以上の割合が増加の傾向を示している。委託児童数でみると「３人」8.8%（前回 2.7%）、「４人」5.0%（前回 1.0%）、「５人以上」5.2%（前回 0.9%）となっている。

表１７　委託児童別里親家庭数

総　　数	1人	2人	3人	4人	5人以上	不詳
1,958	1,086	475	172	97	101	27
100.0%	55.5%	24.3%	8.8%	5.0%	5.2%	1.4%

4　里親の年齢

里親の年齢は「５０歳代」が〔里父（42.2%）・里母（37.4%)〕最も多く、「４０歳代」が〔里父（31.5%）・里母（39.8%)〕これに次いでいる。

なお、前回調査と比べると全体的に、「５０歳代・里父（前回 39.5%)、里母（前回 29.3%)」「６０歳以上・里父（前回 12.3%)、里母（前回 8.5%)」がともに増え、「３０歳代」〔里父（前回 7.5%)・里母（前回 12.4%)〕「４０歳代」〔里父（前回 37.9%)・里母（前回 48.1%)〕がともに減っている。

表１８　里親の年齢別里親家庭数

	総　数	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	いない	不　詳
里　父	1,958 100.0%	3 0.2%	107 5.5%	617 31.5%	827 42.2%	316 16.1%	86 4.4%	2 0.1%
里　母	1,958 100.0%	5 0.3%	196 10.0%	780 39.8%	733 37.4%	226 11.5%	14 0.7%	4 0.2%

5　里親の仕事の種類

就業している里親の仕事の種類は、「専門･技術」が 20.5%（前回 20.1%）と最も多く、次いで「事務」が 13.5%（前回 12.3%)、「宗教家」8.8%（前回 6.0%）となっており、「単純労働」6.2%（前回 9.7%）は減少している。

表１９　仕事の種類別里親家庭数

総　数	社会福祉事業従事者	宗教家	教　員	専門･技術	管　理	事　務	販　売	農林･漁業	単　純労　働	サービス	その他の就業	不　詳
1,958 100.0%	123 6.3%	173 8.8%	86 4.4%	402 20.5%	119 6.1%	265 13.5%	131 6.7%	93 4.7%	122 6.2%	122 6.2%	274 14.0%	48 2.5%

6　里親家庭の年間所得

里親家庭の平成 13 年の年間所得（税込）は表 20 のとおり、一般家庭と比較してみると、「平均所得金額」は里親家庭で 726 万 2 千円、一般家庭で 602 万円となっており、里親家庭の方が多くなっている。

表２０　年間所得（税込）

	平均所得金額
里親家庭	726.2 万円
一般家庭	602.0 万円

注）一般家庭は「平成 14 年国民生活基礎調査」

7　里親家庭の住宅所有状況

里親家庭の住宅所有状況は、「自家･一戸建て」が 77.9%（前回 82.2%）と多くを占めており、次いで「自家･集合住宅」6.9%（前回 5.8%)、「借家･一戸建て」4.9%（前回 3.7%)、「借家･集合住宅」4.5%（前回 4.0%）となっている。

表２１　住宅の所有状況別里親家庭数

総　数	自　家		公営住宅	公社・公団住宅	給与住宅	借　家		間借	その他	不明	不詳
	一戸建て	集合住宅				一戸建て	集合住宅				
1,958 100.0%	1,526 77.9%	136 6.9%	36 1.8%	7 0.4%	41 2.1%	96 4.9%	89 4.5%	- -	12 0.6%	1 0.1%	14 0.7%

Ⅴ　母子生活支援施設入所世帯（母親）の状況

１　児童数

調査日（平成 15 年 2 月 1 日）現在における母子生活支援施設入所世帯数は 4,343 世帯となっており、前回調査（平成 10 年 2 月 1 日）の 4,233 世帯より 110 世帯（2.6%）増加している。

母子生活支援施設入所世帯を児童数別にみると、「1 人」が 54.2%（前回 54.9%）と最も多く、次いで「2 人」が 31.7%（前回 31.7%）となっている。

表２２　児童数別母子生活支援施設入所世帯数

総　数	1人	2人	3人	4人以上	不詳
4,343	2,356	1,377	475	129	6
100.0%	54.2%	31.7%	10.9%	3.0%	0.1%

２　入所理由及び在所期間

（1）入所理由

母子生活支援施設への入所理由は、新たに項目として加えた「配偶者からの暴力」が 28.4%で最も多く、「経済的理由による」の 26.8%（前回 30.0%）、「住宅事情による」の 16.0%（前回 20.3%）がこれに次いでいる。前回最も多かった「入所前の家庭内環境の不適切」は 14.7%（前回 38.2%）となっており、今回の新たな項目である「配偶者からの暴力」に分別されたと考えられる。

表２３　入所理由別母子生活支援施設入所世帯数

総　数	入所前の家庭内環境の不適切による	母親の心身の不安定による	職業上の理由による	住宅事情による	経済的理由による	配偶者からの暴力	その他	不　詳
4,343	640	149	18	695	1,166	1,234	250	191
100.0%	14.7%	3.4%	0.4%	16.0%	26.8%	28.4%	5.8%	4.4%

（2）在所期間

母子生活支援施設へ入所してからの期間は、「5 年未満」が 80.6%（前回 75.9%）と大部分を占め、「5 年未満」の中でも「1 年未満」31.6%（前回 27.6%）、「1 年」20.1%（前回 19.9%）となっている。

表２４　在所期間別母子生活支援施設入所世帯数

総　数	5年未満	1年未満	1年	2年	3年	4年	5～9年	10年以上	不詳
4,343	3,502	1,373	874	575	396	284	653	181	7
100.0%	80.6%	31.6%	20.1%	13.2%	9.1%	6.5%	15.0%	4.2%	0.2%

３　入所時の年齢

母子生活支援施設入所世帯の入所時の母親の年齢は、30 歳代が 48.7%（前回 45.5%）と約半数を占め、次いで 20 歳代が 32.1%（前回 32.8%）、40 歳代が 15.9%（前回 16.6%）となっている。

表２５　入所時の年齢別母子生活支援施設入所世帯数

総　数	20歳未満	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50歳以上	不明
4,343	61	409	985	1,206	908	477	213	76	8
100.0%	1.4%	9.4%	22.7%	27.8%	20.9%	11.0%	4.9%	1.7%	0.2

4　母子世帯になった理由

母子世帯になった理由は、「離婚」が 66.7%（前回 69.1%）と最も多く、次いで「未婚の母」の 13.7%（前回 15.0%）となっている。

表２６　母子世帯になった理由別母子生活支援施設入所世帯数

総　数	死　別			離婚	遺棄	生死不明	未婚の母	その他	不詳
	病　死	交通事故死	その他						
4,343	52	5	17	2,897	149	12	593	581	37
100.0%	1.2%	0.1%	0.4%	66.7%	3.4%	0.3%	13.7%	13.4%	0.9%

5　年金等の受給状況

年金等の受給状況は母子生活支援施設入所世帯の７割以上が「児童扶養手当」75.7%（前回 83.3%）を受給しており、次いで「児童手当」を受給している世帯が 39.1%（前回 15.4%）と多いが、「国民年金」等の各種年金は全部を合計しても 2.4%（前回 3.6%）と１割にも満たない。

表２７　年金等の受給状況別母子生活支援施設入所世帯数

総　数	受給あり（重複回答）									受給なし
	国民年金			厚生年金船員保険	共済年金等	児童手当	児童扶養手 当	特別児童扶養手当	その他	
	母子年金	遺族基礎年　金	その他							
4,343	5	42	47	7	2	1,697	3,289	109	316	660
	0.1%	1.0%	1.1%	0.2%	0.0%	39.1%	75.7%	2.5%	7.3%	15.2%

6　公営住宅入居希望の有無及び現在の状況

（1）公営住宅入居希望

公営住宅入居希望は、母子生活支援施設入所世帯の 56.4%（前回 55.0%）で過半数を超えている。

表２８　公営住宅入居希望の有無別母子生活支援施設入所世帯数

総　数	あり	なし	分からない	不詳
4,343	2,449	902	982	10
100.0%	56.4%	20.8%	22.6%	0.2%

（2）現在の状況

現在の状況は、「適当な住居さえあれば退所できる」という者が 27.4%（前回 27.0%）、「末子が 18 歳になるまで退所困難」という者が 15.9%（前回 21.3%）、「１年以内に退所の見込み」という者が 10.0%（前回 8.3%）、「3 ヶ月以内に退所の見込み」の者が 7.6%（前回 6.9%）となっている。

表２９　現在の状況別母子生活支援施設入所世帯数

総　数	3か月以内に退所の見込み	1年以内に退所の見込み	適当な住宅さえあれば退所できる	末子が18歳になるまで退所困難	その他	不　詳
4,343	328	434	1,188	690	1,657	46
100.0%	7.6%	10.0%	27.4%	15.9%	38.2%	1.1%

7　従業上の地位及び仕事の種類

（1）従業上の地位

母子生活支援施設の入所世帯の母親の 75.2%（前回 81.3%）の母親は就業している。就業している母親は、「臨時･日雇･ﾊﾟｰﾄ」が 51.1%（前回 46.8%）と最も多く、「常用勤労者」が 22.4%（前回 32.2%）とこれに次いでいる。

前回調査に比べて、「常用勤労者」が減り「臨時･日雇･ﾊﾟｰﾄ」及び「不就業」が増えている。

表３０-１　従業上の地位別母子生活支援施設入所世帯数

総　数	事業主	常用勤労者	臨時・日雇・ﾊﾟｰﾄ	その他の就業	不就業	不明	不詳
4,343	9	973	2,221	63	1,058	8	11
100.0%	0.2%	22.4%	51.1%	1.5%	24.4%	0.2%	0.3%

なお、不就業の理由であるが、最も高い割合であったのは、「条件にあった求人がない」で 26.7%（前回 22.0%）、次いで、「精神的・身体的障害がある」の 16.4%（前回 17.7%）、「疾病がある、もしくは虚弱である」の 15.3%（前回 19.9%）であった。

表３０-２　不就業の理由別母子生活支援施設入所世帯数

総　数	講習等で就業準備中	保育が確保できない	乳児がいる	条件にあった求人なし	就労習慣がない	就労意欲が乏しい	疾病・虚弱である	精神的・身体的障害がある	児童に障害・疾病がある	不詳
1,058	95	83	42	282	49	75	162	174	87	9
100.0%	9.0%	7.8%	4.0%	26.7%	4.6%	7.1%	15.3%	16.4%	8.2%	0.9%

（2）仕事の種類

就業している母親について仕事の種類をみると、前回と順位は変わらず、「技能工･生産工程作業者及び労務作業者」が 27.4%（前回 34.2%）と最も多く、次いで「サービス業従事者」26.0%（前回 17.7%）、「事務従事者」14.5%（前回 15.7%）となっている。

表３１　仕事の種類別母子生活支援施設入所世帯数

総　数	専門・技術	管理	事務	販売	農林・漁業	運輸・通信	技能・生産等	保安職業	サービス	その他就業者	不詳
3,285	330	9	476	417	4	47	899	18	853	220	12
100.0%	10.0%	0.3%	14.5%	12.7%	0.1%	1.4%	27.4%	0.5%	26.0%	6.7%	0.4%

注）「不就業」を除く。

8　転職希望の有無

就業している母親のうち、転職を希望する母親は 27.2%（前回 25.7%）、転職希望のない母親は 51.4%（前回 56.9%）となっている。

表３２　転職希望の有無別母子生活支援施設入所世帯数

総　数	あ　り	な　し	分からない
3,285	894	1,690	701
100.0%	27.2%	51.4%	21.3%

注）「不就業」を除く。

9　年間所得

母子生活支援施設入所世帯の平成 13 年の年間所得分布は、表 33 のとおりとなっている。「不明」を除いた分について「平均所得金額」をみると、171 万 2 千円となっており、一般家庭の 602 万円（平成 14 年国民生活基礎調査の結果による）の 3 割程度に止まっている。

表３３　年間所得別母子生活支援施設入所世帯数

数　総	100万円未満	100～199万円	200～299万円	300～399万円	400万円以上	不　明	平均所得金　額
4,343 100.0%	546 16.2%	1,732 51.4%	910 27.0%	151 4.5%	32 0.9%	972 -	171.2 万円

注）構成割合及び「平均所得金額」は総数から不明を除いて算出

10　母子生活支援施設に入所している児童の虐待経験の状況

今回の調査から新たに質問項目として設定した「虐待」に関しては、「虐待を受けたことがある」が全体の 18.5%であり、男子 20.0%、女子 16.9%で男子の割合が高い。

表３４　虐待を受けた経験別母子生活支援施設入所児童数

	実　数	あ　り	な　し	不　明	不　詳
総数	7,089 100.0%	1,311 18.5%	5,256 74.1%	504 7.1%	18 0.3%
男	3,565	20.0%	72.7%	7.0%	0.3%
女	3,484	16.9%	75.6%	7.2%	0.2%

注）総数には、性別不詳を含む。

Ⅵ　児童養護施設の年長児童の状況

１　年長児童の就学状況

今回の調査で回答が得られた中学３年生以上の年長児童は、6,467 人であった。その内男子は 3,328 人（51.5%）、女子は 3,122 人（48.3%）、性別不詳が 17 人（0.3%）となっている。

また、就学状況別の年長児童数は表 35 のとおりであるが、中学 3 年生は 2,169 人（33.5%）であり、高校生（通信制を含む）は 4,002 人（61.9%）である。

それ以外では、専修学校には 45 人（0.7%）が、公共職業訓練校には 33 人（0.5%）が通っている。

表３５　児童養護施設の年長児童の就学状況

	総　数	中　3	中学卒	高　1	高　2	高　3	高　4	通信制	高校卒	専修学	公職訓	その他	不　詳
総　数	6,467 100.0%	2,169 33.5%	56 0.9%	1,474 22.8%	1,307 20.2%	1,148 17.8%	37 0.6%	36 0.6%	6 0.1%	45 0.7%	33 0.5%	141 2.2%	15 0.2%
男	3,328 51.5% [100.0]	1,163 [34.9]	22 [0.7]	766 [23.0]	662 [19.9]	531 [16.0]	26 [0.8]	19 [0.6]	2 [0.1]	21 [0.6]	31 [0.9]	77 [2.3]	8 [0.2]
女	3,122 48.3% [100.0]	1,006 [32.2]	33 [1.1]	706 [22.6]	639 [20.5]	615 [19.7]	11 [0.4]	17 [0.5]	4 [0.1]	24 [0.8]	2 [0.1]	62 [2.0]	3 [0.1]

注）総数には性別不詳を含む。

総数欄の％つきの数字は、就学状況の構成割合。[　]内の数字は、就学状況別構成割合。

２　児童の生活行動経験

思いやりの行動や社会的自立に関わる行動として、「犬、ネコなどや家畜などの世話をしたこと」、「困っている人を助けてあげたこと」、「自分で決めた事（スポーツや勉強など）をやりとげ、よくやったなとうれしく思うこと」、「自分や友人たちと計画して、旅行したこと」、「赤ちゃんをあやしたり、おむつの世話をしたこと」、「ボランティアをしたこと」、「一人で銀行や役所（区役所･市役所･町役場等）などで、手続きをしたこと」、「自分の気に入った洋服や持ち物を選んで買ったこと」、「アルバイトやパートタイムの仕事をしたこと」、「大勢で１人をいじめてしまったこと」、「いじめを受けていたこと」、「虐待を受けたこと」についての経験の有無について質問した。その内容を取りまとめたのが、表 36 である。なお、最後の「虐待を受けたこと」は今回新たに設定した項目である。

全項目中で最も多く経験しているのは「自分の気に入った洋服や持ち物を選んで買ったこと」の 93.3%でほとんどの児童が経験しており、逆に最も少ないのは「自分や友人たちと計画して、旅行したこと」の 20.7%の児童しか経験がない。

男女間で差の大きな項目は、「赤ちゃんをあやしたり、おむつの世話をしたこと」で女子の経験が 28.8 ポイント大きくなっている。

就学状況別で差の大きい項目は、「一人で銀行や役所（区役所･市役所･町役場等）などで、手続きをしたこと」、「アルバイトやパートタイムの仕事をしたこと」で中３から高校高学年に進むに従って経験の割合が高くなっている。

前回から設定した「いじめ」に関しては、「大勢で１人をいじめてしまったこと」25.7%、「いじめを受けていたこと」37.7%であり、いじめた側は男子の比率が高く、いじめられる側は女子の比率が高い。

また、今回から新たに質問項目として設定した「虐待」に関しては、「虐待を受けたこと」が全体の 23.4%であり、女子の経験が 9 ポイント大きい結果となっている。

表３６　児童養護施設の年長児童の経験状況

	実　数	ｱ. ネコの世話	ｲ. 人を助ける	ｳ. やりとげる	ｴ. 旅行	ｵ. 赤ちゃん	ｶ. ボランティア	ｷ. 手続き	ｸ. 買う	ｹ. アルバイト	ｺ. 大勢でいじめた	ｻ. いじめを受けていた	ｼ. 虐待を受けた
総数	6,467	65.9%	71.4%	72.3%	20.7%	51.6%	63.2%	29.2%	93.3%	36.2%	25.7%	37.7%	23.4%
男	3,328	63.5%	68.3%	72.2%	22.7%	37.7%	61.4%	29.7%	91.7%	36.7%	25.9%	32.0%	19.1%
女	3,122	68.5%	74.7%	72.4%	18.5%	66.5%	65.1%	28.6%	95.0%	35.7%	25.3%	43.9%	28.1%
中3	2,169	67.2%	71.6%	70.6%	19.4%	51.7%	64.6%	16.8%	92.0%	5.9%	27.7%	37.1%	23.6%
高1	1,474	64.5%	68.8%	70.1%	19.8%	51.2%	62.8%	28.4%	92.3%	34.6%	24.6%	35.1%	22.0%
高2	1,307	65.7%	71.5%	75.0%	22.2%	51.6%	62.8%	34.4%	95.3%	52.6%	24.6%	37.0%	22.3%
高3・4	1,185	65.4%	75.3%	77.6%	23.4%	52.9%	64.7%	46.1%	95.1%	69.3%	23.5%	40.5%	24.6%
専・職	78	64.1%	61.5%	64.1%	11.5%	42.3%	50.0%	29.5%	97.4%	64.1%	24.4%	35.9%	21.8%
その他	239	66.9%	69.5%	61.5%	18.8%	52.7%	51.0%	36.8%	90.4%	57.3%	32.6%	51.0%	32.2%

注）総数には性別不詳を含む。

３　大切なこと

大切なことと思うものについて、９項目の中から、３つを選び回答してもらった。単語自体には多義的なものも多いが、特に限定せず児童の判断に任せた。

最も選択率が高かったものは、「4.友達がたくさんいること」の 54.1%（前回 54.1%）で、次いで「5.健康であること」の 51.2%（前回 53.6%）、「7.将来に夢を持っていること」の 49.1%（前回 50.9%）となっている。

逆に、最も選択率の低かったものは、「8.人のいやがる事をすすんでやること」の 8.2%（前回 9.3%）で、次いで「1.勉強ができること」10.1%（前回 9.3%）、「3.お金がたくさんあること」の 21.0%（16.2%）となっている。男女ともに「8.人のいやがる事をすすんでやること」が最も選択されず、次いで「1.勉強ができること」、「3.お金がたくさんあること」の順は男女とも同じである。

男女間で差の大きい項目は、「6.運動や歌などで、何か得意なもの（特技）があること」11.1 ポイント、次いで「2.家族で仲良く生活すること」で 8.4 ポイント、「9.勇気を持っていること」6.5 ポイントの差がみられる。

就学状況別で差の大きい項目は、中３から高校高学年に進むにつれ、「2.家族で仲良く生活すること」は割合が低くなり、「3.お金がたくさんあること」は割合が高くなっている。

表３７　児童養護施設の年長児童の大切なこと（３つ選択）

	実　数	1. 勉強	2. 家族	3. お金	4. 友達	5. 健康	6. 特技	7. 夢	8. すすんでやる	9. 勇気
総　　数	6,467	10.1%	38.3%	21.0%	54.1%	51.2%	30.9%	49.1%	8.2%	28.5%
男	3,328	11.2%	34.3%	21.5%	53.8%	50.3%	36.3%	49.4%	7.8%	25.4%
女	3,122	9.0%	42.7%	20.4%	54.5%	52.3%	25.2%	48.8%	8.6%	31.9%
中3	2,169	13.4%	43.0%	17.7%	52.9%	49.3%	30.2%	46.7%	8.1%	29.5%
高1	1,474	9.0%	38.1%	20.8%	58.3%	49.0%	32.8%	49.5%	7.7%	28.3%
高2	1,307	10.0%	35.0%	21.7%	52.4%	53.6%	32.4%	50.5%	7.4%	27.9%
高3・4	1,185	5.9%	33.8%	25.7%	54.3%	55.5%	29.2%	51.1%	9.4%	28.4%
専・職	78	9.0%	33.3%	19.2%	62.8%	44.9%	32.1%	47.4%	9.0%	29.5%
その他	239	9.6%	39.7%	26.8%	43.1%	51.9%	26.8%	50.6%	9.2%	25.9%

注）総数には性別不詳を含む。

4　高等学校（各種学校）進学希望

児童養護施設入所児童のうち、中学 3 年生の高等学校又は各種学校への進学希望は、表 38 のとおりである。

調査の時点で進学を希望する児童の割合は 88.0%（前回 82.7%）であり、まだ考えていない児童は 4.4%（前回 5.7%）、進学を希望していない児童は 6.6%（前回 11.6%）となっており、前回調査に比べ大幅に進学を希望する児童が増加し、９割に近づいている。性別では、男子に比べて女子が 2.9 ポイント高い結果となっている。

表３８　児童養護施設の年長児童の高等学校（各種学校）進学希望

	実　数	希望する	考えていない	希望しない
中学3年生	2,169	88.0%	4.4%	6.6%
男	1,163	86.7%	5.2%	7.2%
女	1,006	89.6%	3.6%	5.9%

5　大学（短大）進学希望

中学３年生以上の年長児童全員の大学又は短期大学への進学希望は、表 39 のとおりである。

調査の時点で大学（短大）進学希望者の割合は 21.4%（前回 18.5%）、考えていない 26.0%（前回 26.1%）、希望しない 46.5%（前回 55.4%）となっており、前回調査より進学希望が増加している。性別では、高等学校（各種学校）同様、女子の方が男子に比べ進学の希望が高い。

表３９　児童養護施設の年長児童の大学（短大）進学希望

	実　数	希望する	考えていない	希望しない
総　　数	6,467	21.4%	26.0%	46.5%
男	3,328	18.4%	26.2%	49.9%
女	3,122	24.7%	25.8%	43.0%
中3	2,169	21.6%	34.0%	40.6%
高1	1,474	20.8%	27.7%	46.6%
高2	1,307	23.5%	20.0%	49.6%
高3・4	1,185	22.6%	15.4%	53.8%
専・職	78	6.4%	21.8%	53.8%
その他	239	11.7%	28.5%	45.2%

注）　総数には性別不詳を含む。

6　将来の希望（1）－職業－

将来やりたい職業について、「会社や役所に勤める」、「工場に勤める」、「商店・デパート等に勤める」、「農業･漁業･林業･酪農など」、「学校の先生や保育士･看護師など」、「自動車･電車などの運転手及び船乗り･パイロットなど」、「美容師･理容師」、「スポーツ･芸能･芸術」、「警察･消防･自衛官」、「大工･建設業」、「新聞記者･アナウンサー」、「医者･弁護士」などの項目の中から１つを選択した結果が、次の表 40 である。

男子では、「スポーツ･芸能･芸術」11.7%（前回 15.3%）、「大工･建設業」10.7%（前回 12.0%）、「工場に勤める」8.2%（前回 11.0%）などが上位を占めている。これは前回調査と同じ項目となっている。

女子では、「学校の先生や保育士･看護師など」21.6%（前回 20.7%）、「美容師･理容師」8.8%（前回 9.7%）、「飲食業・調理等」7.3%（前回 8.2%）が上位を占めている。

表４０　児童養護施設の年長児童の将来の希望（職業）

	実数	会社や役所に勤める	工場に勤める	商店に勤める	農業漁業林業等	先生看護師等	運転手ﾊﾟｲﾛｯﾄ等	美容理容	飲食業	ｽﾎﾟｰﾂ･芸能･芸術	警察・消防・自衛官	大工・建築業	新聞記者・ｱﾅｳﾝｻｰ	医　者弁護士	その他	未決
総数	6,467	4.5%	5.2%	4.5%	2.1%	12.8%	2.9%	5.6%	7.4%	9.5%	2.1%	5.7%	0.4%	1.2%	13.7%	18.8%
中3	2,169	3.9%	4.5%	3.6%	2.6%	11.9%	3.7%	5.2%	7.8%	11.0%	1.7%	7.7%	0.6%	1.5%	13.2%	18.4%
高1	1,473	4.1%	3.9%	4.9%	1.5%	12.8%	2.8%	6.0%	7.3%	9.2%	2.1%	4.5%	0.3%	0.7%	11.8%	24.3%
高2	1,303	5.5%	6.1%	5.5%	2.1%	14.9%	2.0%	5.2%	5.8%	6.8%	3.0%	4.2%	0.4%	1.0%	13.3%	20.4%
高3・4	1,188	5.6%	6.8%	4.4%	1.5%	13.4%	2.1%	5.6%	8.8%	10.7%	2.4%	3.7%	0.4%	1.3%	17.8%	11.6%
専・職	78	2.6%	9.0%	5.1%	2.6%	6.4%	3.8%	7.7%	9.0%	7.7%	-	21.8%	-	-	9.0%	7.7%
その他	249	3.2%	4.8%	4.8%	3.6%	9.6%	5.2%	6.4%	5.6%	8.4%	1.2%	7.6%	0.4%	2.0%	12.9%	18.1%
男	3,328	5.9%	8.2%	2.9%	3.1%	4.6%	5.3%	2.5%	7.5%	11.7%	3.5%	10.7%	0.5%	1.3%	10.2%	18.8%
中3	1,163	4.7%	7.7%	3.0%	4.0%	2.6%	6.4%	1.5%	7.7%	13.1%	2.7%	14.0%	0.5%	1.4%	10.1%	18.3%
高1	766	5.2%	6.9%	3.9%	2.1%	5.2%	5.1%	2.5%	7.0%	11.9%	3.1%	8.5%	0.5%	0.7%	8.6%	25.1%
高2	662	8.0%	9.5%	2.0%	2.9%	7.3%	3.3%	3.3%	6.5%	7.7%	5.0%	7.9%	0.6%	1.1%	10.1%	20.5%
高3・4	557	7.7%	10.1%	2.3%	2.3%	5.7%	4.3%	3.6%	9.9%	13.8%	4.5%	7.5%	0.4%	1.8%	12.0%	11.5%
専・職	52	1.9%	11.5%	3.8%	3.8%	1.9%	5.8%	3.8%	5.8%	9.6%	-	32.7%	-	-	5.8%	5.8%
その他	128	3.1%	5.5%	2.3%	5.5%	1.6%	10.2%	2.3%	3.1%	10.9%	2.3%	14.1%	0.8%	3.9%	14.1%	14.8%
女	3,122	3.1%	1.9%	6.2%	1.0%	21.6%	0.4%	8.8%	7.3%	7.2%	0.7%	0.4%	0.4%	1.1%	17.4%	18.7%
中3	1,006	3.0%	0.9%	4.4%	0.9%	22.7%	0.7%	9.5%	7.9%	8.5%	0.6%	0.5%	0.6%	1.7%	16.8%	18.6%
高1	706	2.8%	0.6%	5.9%	0.8%	21.0%	0.3%	9.9%	7.5%	6.4%	1.0%	0.1%	0.1%	0.7%	15.2%	23.5%
高2	639	3.0%	2.5%	9.2%	1.3%	22.8%	0.6%	7.2%	5.2%	5.6%	0.9%	0.5%	0.2%	0.9%	16.6%	20.2%
高3・4	626	3.8%	4.0%	6.1%	0.8%	20.1%	0.2%	7.5%	7.8%	7.8%	0.5%	0.3%	0.5%	1.0%	22.8%	11.8%
専・職	26	3.8%	3.8%	7.7%	-	15.4%	-	15.4%	15.4%	3.8%	-	-	-	-	15.4%	11.5%
その他	119	2.5%	4.2%	7.6%	1.7%	17.6%	-	10.9%	8.4%	5.9%	-	0.8%	-	-	11.8%	21.8%

注）総数には性別不詳を含む。

7　将来の希望（2）－家庭復帰、結婚、自立－

もとの家庭への復帰希望、結婚への願望、施設から出て自活する自信の有無について聞いた結果が表 41 である。

早くもとの家庭へ復帰したい児童は、全体で 38.4%（前回 41.9%）であるが、14 歳では 52.5%、15 歳では 45.4%が希望しており、その後は年齢の増加とともに減少している。

早く結婚して落ち着いた家庭を作りたいと答えた児童は、37.9%（前回 39.6%）であり、この項目については、年齢による差はほとんどみられない。

施設を出て、自分で生活することに自信があると答えた児童は、31.5%（前回 33.5%）となっており、特に性別による差が大きく、男子が 37.7%（前回 40.0%）に対して、女子は 25.0%（前回 27.9%）となっている。

「家庭復帰希望」「自立生活への自信」の項目に関しては、前々回の調査以来減少の傾向を示している。

（「家庭復帰希望」：47.0%→41.9%→38.4%）

（「自立生活への自信」：36.6%→33.5%→31.5%）

※［H4.12 調査　→　H10.2 調査　→　H15.2 調査］

表４１　児童養護施設の年長児童の将来の希望（家庭復帰、結婚、自立）

	実　数	家庭復帰	結婚したい	生活していく自信
総　　数	6,467	38.4%	37.9%	31.5%
男	3,328	37.3%	37.0%	37.7%
女	3,122	39.5%	39.0%	25.0%
14歳	297	52.5%	38.7%	33.0%
15歳	2,104	45.4%	37.9%	34.3%
16歳	1,547	38.7%	38.5%	27.2%
17歳	1,357	32.6%	36.8%	31.0%
18歳以上	1,129	27.8%	38.5%	32.9%

注）総数には性別不詳、年齢不詳を含む。

8　友人関係

友人関係であるが、表42のとおり、「親身になってくれるともだちがいますか」という質問に対して、「いる」という回答をした年長児童は57.9%（前回55.9%）、「いない」は7.3%（前回9.2%）、「わからない」は27.4%（前回30.3%）であった。

表４２　児童養護施設の年長児童の友人関係

	実　数	いる	いない	わからない	不詳
総　　数	6,467	57.9%	7.3%	27.4%	7.4%
男	3,328	52.0%	8.2%	31.9%	7.9%
女	3,122	64.2%	6.2%	22.8%	6.8%
14歳	297	56.2%	8.1%	34.3%	1.3%
15歳	2,104	58.7%	7.6%	31.1%	2.5%
16歳	1,547	53.6%	7.0%	27.7%	11.7%
17歳	1,357	56.7%	7.2%	25.6%	10.5%
18歳以上	1,129	64.4%	6.9%	20.5%	8.1%

注）総数には性別不詳、年齢不詳を含む。

Ⅶ　児童自立支援施設の年長児童の状況

１　年長児童の就学状況

今回の調査に回答を寄せてきた年長児童数は、813 人であった。その内男子は 527 人（64.8%）、女子は 284 人（34.9%）、性別不詳が 2 人（0.2%）となっている。

また、児童自立支援施設入所児童の就学状況別の年長児童数は、表 43 のとおりである。

表４３　児童自立支援施設の年長児童の就学状況

	総　数	中3	中学卒	高1	高2	高3	高4	通信制	高校卒	専修学	公職訓	その他	不　詳
総　数	813 100.0%	615 75.6%	113 13.9%	26 3.2%	17 2.1%	16 2.0%	1 0.1%	1 0.1%	- -	4 0.5%	4 0.5%	16 2.0%	- -
男	527 64.8% [100.0]	398 [75.5]	70 [13.3]	18 [3.4]	13 [2.5]	10 [1.9]	1 [0.2]	- -	- -	3 [0.6]	4 [0.8]	10 [1.9]	- -
女	284 34.9% [100.0]	215 [75.7]	43 [15.1]	8 [2.8]	4 [1.4]	6 [2.1]	- -	1 [0.4]	- -	1 [0.4]	- -	6 [2.1]	- -

注）総数には、性別不詳を含む。

総数欄の%つきの数字は、就学状況の構成割合。[　]内の数字は、就学状況別構成割合。

２　児童の生活行動経験

思いやりの行動や社会的自立に関わる行動として、児童養護施設と同様の項目で、それぞれについての経験の有無を聞いた。

全項目中で最も多く経験しているのは「自分の気に入った洋服や持ち物を選んで買ったこと」の 93.0%で、ほとんどの児童が経験しており、逆に少ないのは「一人で銀行や役所（区役所･市役所･町役場等）などで、手続きをしたこと」で 22.4%の児童しか経験がない。

男女間で差の大きな項目は、「赤ちゃんをあやしたり、おむつの世話をしたこと」であり、女子が男子に比べて 21.7 ポイント大きくなっている。

前回から設定した「いじめ」に関しては、「大勢で１人をいじめてしまったこと」が 49.6%（前回 52.5%）、「いじめを受けていたこと」が 40.1%（前回 42.1%）であり、いずれの項目についても、女子の比率が高いという結果になっている。

また、今回から新たに質問項目として設定した「虐待」に関しては、「虐待を受けたこと」が全体の 27.7%であり、女子が 12.1 ポイント高い結果となっている。

表４４　児童自立支援施設の年長児童の経験状況

	実　数	ｱ. ネコの世話	ｲ. 人を助ける	ｳ. やりとげる	ｴ. 旅行	ｵ. 赤ちゃん	ｶ. ボランティア	ｷ. 手続き	ｸ. 買う	ｹ. アルバイト	ｺ. 大勢でいじめた	ｻ. いじめを受けていた	ｼ. 虐待を受けた
総　数	813	80.9%	70.5%	77.2%	30.1%	57.7%	56.5%	22.4%	93.0%	32.0%	49.6%	40.1%	27.7%
男	527	80.1%	69.8%	78.2%	30.6%	50.1%	54.1%	22.2%	91.7%	32.6%	46.7%	35.1%	23.5%
女	284	82.4%	72.2%	75.4%	29.6%	71.8%	60.9%	22.9%	95.4%	31.0%	54.9%	48.9%	35.6%
中3	615	81.6%	70.2%	78.4%	30.6%	59.3%	52.4%	21.1%	93.5%	25.7%	51.5%	37.2%	25.2%
中学卒業	113	77.9%	73.5%	74.3%	29.2%	54.9%	68.1%	22.1%	92.0%	42.5%	47.8%	46.0%	32.7%
高校生等	85	80.0%	68.2%	72.9%	28.2%	49.4%	70.6%	31.8%	90.6%	63.5%	37.6%	52.9%	38.8%

注）総数には、性別不詳を含む。

3　大切なこと

児童養護施設と同様に、大切なことと思うものについて回答してもらった。

最も選択率の高かったものは、「2.家族で仲良く生活すること」の 60.3%（前回 57.3%）で、次いで「4.友達がたくさんいること」の 49.3%（前回 47.2%）、「7.将来に夢をもっていること」の 47.5%（前回 44.9%）となっている。

逆に、最も選択率の低かったものは、「1.勉強ができること」の 6.8%（前回 7.5%）で、次いで「8.人のいやがる事をすすんでやること」の 9.5%（前回 10.7%）、「3.お金がたくさんあること」の 22.6%（前回 17.6%）となっている。

男女間で差の大きい項目は、「6.運動や歌などで、何か得意なもの（特技）があること」で男子が 15.9 ポイント大きいのに対し、「3.お金がたくさんあること」では逆に女子が 11.1 ポイント大きくなっている。

表４５　児童自立支援施設の年長児童の大切なこと（３つ選択）

	実　数	1.勉強	2.家族	3.お金	4.友達	5.健康	6.特技	7.夢	8.すすんでやる	9.勇気
総 数	813	6.8%	60.3%	22.6%	49.3%	44.6%	26.4%	47.5%	9.5%	26.8%
男	527	7.8%	57.7%	18.8%	47.4%	42.5%	32.1%	50.9%	10.2%	24.3%
女	284	4.2%	64.8%	29.9%	52.8%	48.9%	16.2%	41.5%	7.7%	31.7%
中３	615	6.5%	63.6%	21.1%	50.6%	44.7%	26.7%	46.5%	9.1%	25.5%
中学卒業	113	8.8%	50.4%	30.1%	43.4%	41.6%	24.8%	50.4%	11.5%	35.4%
高校生等	85	5.9%	49.4%	23.5%	48.2%	48.2%	27.1%	50.6%	9.4%	24.7%

注）総数には、性別不詳を含む。

4　高等学校（各種学校）進学希望

児童自立支援施設入所児童のうち、中学 3 年生の高等学校または各種学校への進学希望は、表 46 のとおりである。

調査の時点で進学を希望する児童の割合は 68.0%(前回 52.4%)、まだ考えていない児童 7.5%(前回 11.6%)、進学を希望していない児童は 23.4%(前回 34.0%)となっており、前回調査に比べ進学希望が大幅に増加している。

性別では、女子の方が、男子に比べ進学希望が 5.1 ポイント高い。

表４６　児童自立支援施設の年長児童の高等学校（各種学校）進学希望

	実　数	希望する	考えていない	希望しない	不　詳
中学3年生	615	68.0%	7.5%	23.4%	1.1%
男	398	66.1%	8.0%	25.1%	0.8%
女	215	71.2%	6.5%	20.5%	1.9%

注）総数には、性別不詳を含む。

5　大学（短大）進学希望

中３以上の年長児童全員の大学または短期大学への進学希望は、表 47 のとおりである。

大学（短大）進学希望者の割合は 12.4%（前回 8.6%）、考えていない 31.7%（前回 28.1%）、希望しない 52.6%（前回 56.2%）となっており、前回調査より進学希望が増加している。性別では高等学校（各種学校）同様、女子の方が男子に比べ進学希望が 2.1 ポイント高い。

表４７　児童自立支援施設の年長児童の大学（短大）進学希望

	実　数	希望する	考えていない	希望しない	不　詳
総　　数	813	12.4%	31.7%	52.6%	3.2%
男	527	11.6%	31.5%	54.5%	2.5%
女	284	13.7%	32.4%	49.3%	4.6%
中3	615	10.7%	32.4%	54.0%	2.9%
中学卒業	113	15.9%	34.5%	45.1%	4.4%
高校生等	85	20.0%	23.5%	52.9%	3.5%

注）総数には、性別不詳を含む。

6　将来の希望（1）－職業－

児童養護施設と同様に、将来やりたい職業について選択した結果が表 48 である。

男子では、「大工･建設業」27.5%（前回 34.5%）、「スポーツ・芸能・芸術」8.9%（前回 4.7%）、「飲食業」8.0%（前回 8.3%）などが上位を占めている。女子では、「学校の先生や保育士・看護師など」16.9%（前回 12.0%）、「美容師･理容師」14.4%（前回 20.4%）、「飲食業・調理等」9.9%（前回 11.7%）が上位を占めている。

女子の希望で男子と異なる特徴は、「美容師･理容師」、「学校の先生や保育士･看護師など」、「商店・デパート等に勤める」の割合が高くなっており、「大工･建設業」、「工場に勤める」の割合が低くなっている。

表４８　児童自立支援施設の年長児童の将来の希望（職業）

	実数	会社や役所に勤める	工場に勤める	商店に勤める	農業漁業林業等	先生看護師等	運転手・ﾊﾟｲﾛｯﾄ等	美容理容	飲食業	ｽﾎﾟｰﾂ芸能芸術	警察消防自衛官	大工建設業	新聞記者ｱﾅｳﾝｻｰ	医者弁護士	その他	未決
総　数	813	1.7%	3.6%	4.7%	2.2%	8.4%	3.0%	6.9%	8.7%	7.5%	1.2%	18.1%	0.5%	1.0%	13.4%	17.7%
中3	615	1.6%	3.3%	4.9%	2.4%	7.0%	2.3%	8.0%	7.8%	8.3%	0.7%	19.8%	0.3%	1.1%	13.8%	17.2%
中学卒業	113	0.9%	3.5%	6.2%	2.7%	13.3%	4.4%	4.4%	13.3%	5.3%	1.8%	15.9%	0.9%	－	7.1%	19.5%
高校生等	85	3.5%	5.9%	1.2%	－	11.8%	5.9%	2.4%	9.4%	4.7%	4.7%	8.2%	1.2%	1.2%	18.8%	18.8%
男	527	2.3%	5.3%	2.3%	3.2%	3.8%	4.2%	2.8%	8.0%	8.9%	1.9%	27.5%	0.6%	0.8%	11.4%	15.6%
中3	398	2.0%	4.8%	2.3%	3.5%	2.8%	3.5%	3.3%	7.8%	10.3%	1.0%	30.2%	0.3%	1.0%	11.6%	14.3%
中学卒業	70	1.4%	5.7%	2.9%	4.3%	5.7%	5.7%	2.9%	10.0%	5.7%	2.9%	25.7%	1.4%	－	7.1%	18.6%
高校生等	59	5.1%	8.5%	1.7%	－	8.5%	6.8%	－	6.8%	3.4%	6.8%	11.9%	1.7%	－	15.3%	20.3%
女	284	0.7%	0.4%	9.2%	0.4%	16.9%	0.7%	14.4%	9.9%	4.9%	－	0.7%	0.4%	1.4%	17.3%	21.5%
中3	215	0.9%	0.5%	9.8%	0.5%	14.9%	－	16.7%	7.4%	4.7%	－	0.9%	0.5%	1.4%	18.1%	22.3%
中学卒業	43	－	－	11.6%	－	25.6%	2.3%	7.0%	18.6%	4.7%	－	－	－	－	7.0%	20.9%
高校生等	26	－	－	－	－	19.2%	3.8%	7.7%	15.4%	7.7%	－	－	－	3.8%	26.9%	15.4%

注）総数には、性別不詳を含む。

7　将来の希望（2）－家庭復帰、結婚、自立－

もとの家庭への復帰希望、結婚への願望、施設から出て自活する自信の有無について結果聞いた結果が表49である。

早くもとの家庭へ復帰したい児童は78.0%（前回76.0%）、早く結婚して落ち着いた家庭を作りたいと答えた児童は52.2%（前回51.6%）、施設を出て、自分で生活することに自信があると答えた児童は58.3%（前回54.1%）となっている。

表４９　児童自立支援施設の年長児童の将来の希望（家庭復帰、結婚、自立）

	実　数	家庭復帰	結婚したい	生活していく自信
総　　数	813	78.0%	52.2%	58.3%
男	527	76.9%	51.2%	62.0%
女	284	79.9%	54.2%	51.8%
14歳	81	86.4%	58.0%	66.7%
15歳	548	84.5%	51.3%	63.0%
16歳	102	58.8%	54.9%	37.3%
17歳	45	53.3%	53.3%	57.8%
18歳以上	25	40.0%	48.0%	36.0%

注）総数には性別不詳、年齢不詳を含む。

8　友人関係

友人関係であるが、表50をみるとわかるように、「親身になってくれるともだちがいますか」という質問に対して、「いる」という回答をした年長児童は57.2%（前回53.5%）、「いない」は11.1%（前回11.0%）、「わからない」は28.3%（前回29.9%）であった。

表５０　児童自立支援施設の年長児童の友人関係

	実　数	いる	いない	わからない	不詳
総　　数	813	57.2%	11.1%	28.3%	3.4%
男	527	55.0%	12.0%	28.8%	4.2%
女	284	61.3%	9.2%	27.5%	2.1%
14歳	81	65.4%	11.1%	23.5%	-
15歳	548	58.4%	11.5%	28.3%	1.8%
16歳	102	51.0%	11.8%	27.5%	9.8%
17歳	45	55.6%	-	28.9%	15.6%
18歳以上	25	48.0%	16.0%	32.0%	4.0%

注）総数には性別不詳、年齢不詳を含む。